



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 刊行によせて                                                                            |
| Author(s)        | 太田原, 高昭                                                                           |
| Citation         | 北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 7                                                             |
| Issue Date       | 2000-03                                                                           |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/35387">https://hdl.handle.net/2115/35387</a> |
| Type             | departmental bulletin paper                                                       |
| File Information | 7_kankou.pdf                                                                      |



# 刊行によせて

技術部長 大田原 高昭（農学部長）

今年度から新しく技術部長に就任しました。私は農業経済で技術問題には暗いので皆さんに教えられながら勤めるつもりですのでよろしくお願いします。研究技術報告第 6 号に植物園の長野純子さんの文章が載っていて、植物園がいかに市民に親しまれ大事にされているかが新任職員のみずみずしい感覚で述べられています。お互いにこの初心を忘れずに精進したいものだと思います。

すでに歴代の技術部長が繰り返し述べているように、大学、特に理系の大学の教育研究にとって技術系職員の役割は決定的に重要です。したがってそれにふさわしい位置付けが与えなければならないと同時に、職員自身にも日進月歩で発達する科学技術の水準にあわせて日常不断の自己研修が求められています。技術部はこのような趣旨の下に設置され、間もなく 10 年の歴史を刻もうとしています。まだまだ多くの課題に応えるべく技術自体も日進月歩しなければならないと考えています。

農学部も大学院重点化の改革が一応の完成を迎え、大学院農学研究科を表看板にして新しいスタートを切りました。しかしこれで改革が終了したわけではありません。教育研究の内容の充実と共に、大学院重点化の趣旨に沿った附属施設の改革の課題が残されています。この問題については今年度に入ってから大きな進展があり、2 月の評議会で「北方生物圏フィールドセンター〔仮称〕」の設置計画が決定されますので、その概要について説明しておきます。

この計画は農学部の 4 つの附属施設（農場、牧場、植物園、演習林）だけでなく、水産学部の洞爺湖臨湖実験所、臼尻水産実験所、七飯養魚実習施設、練習船北星丸、理学部の臨海実験所、海草研究施設、および学内共同利用施設である忍路臨海実験所の計 11 の生物系附属施設を統合・再編して新たに学内共同教育研究施設として新センターを立ち上げようというスケールの大きなものです。横につながっている自然をこれまでのようなタテ割りの体制で個別的に扱うのではなく、一つの「フィールド科学」として統一的総合的に認識し得る教育研究の場をつくろうというのが基本的なねらいです。

といっても学部学生の実習教育の場としての機能など現在まで果たしてきた

役割についてはこれまで以上に充実させることが前提になっています。したがって概算要求が通っても日常の仕事が大きく変わるということにはなりません。組織は抜本的に変わります。さしあたり技術部の在り方も新しい組織に対応したより大きいものとなるでしょう。独立行政法人化問題など、国立大学の周辺も騒がしくなっていますが、私達としてはあくまでも自らが理想と信じる大学の在り方を求めて1段階ずつ階段を上っていく不断的努力を続けようではありませんか。

[2000年2月]